

<p>岡崎市交通政策会議(ファイダー)</p>	<p>A 委員</p> <p>◆くちがり線が補助から外れたことを経験済みであるため、それらの教訓を踏まえてきちんと検討して欲しい。</p>	<p>B 委員</p> <p>◆バス停名称を文字以内に、視認性を上げることが改善なのか。 →(市)市民からのバス停名称が見にくいという意見に対応したものである。 →(B)バス停にはバス停名称ではなく、行き先表示が必要であることは以前から言っている。 →(市)今後の参考としたい。 →(B)そのような認識が、桜形線の補助落ちにつながっているのではないかと。沿線地域の地元協議会はあるのか。 →(市)桜形線にはないが、コミュニティバスの協議会は存在する。その協議会内で桜形線の利用促進として、名鉄バスの得々パスの案内をすすめている。 →(B)桜形線が補助落ちになることは地域住民にも周知済みということか。危機意識につなげていないのではないかと。そういう内容が評価に記録されていく。ファイダーシステムで記載しても利用はそこだけでなくなってしまうが、岡崎やその先まで行く場合には地域間幹線系統の維持が必要であり、そのために地域住民として何ができるかを考えていただく必要がある。地域間幹線系統は誰が残してくれるのか、ファイダーシステムだけ考えればよいという認識では地域間幹線系統は廃止になってしまうことになるのではないかと。</p>	<p>C 委員</p> <p>◆バスの乗り方教室の実施回数が目標となるかは疑わしい。乗り方教室実施の結果、どの程度の方がバスを利用してくれるようになったかを目標とすべきである。 ◆中部様式4ペー지의各種利用促進事業も同様で、実施自体はよいがその効果が分からない。 ◆公共交通マップについては、継続して作成欲しい。 ◆中部様式5ペー지의評価見直しに向けた検討の趣旨を明確にした方がよい。また、定量的な評価、定性的な評価について検討した結果、新たな指標があれば教えて欲しい。 →(市)新たな評価指標については、現在検討中であるが、1つの案としては、市としてのネットワークとしての必要性や市民の移動の際の必要性、地域住民の協議状況などを評価できればと考えている。 ◆本省様式の評価の内容がどれも同じに見える。→(市)記載内容を見直したい。 ◆バスの乗り方教室については効果の検証を行っているか。 →(市)全体として利用が増加していることを踏まえると成果は出ていると評価している。</p>	<p>運輸局</p> <p>◆県の説明のとおり来年度から「桜形線」については補助対象外となるおそれがある。これまでの傾向から、補助対象外になってその後、路線廃止になる可能性も危惧されるがそれによいということか。 →(市)広域的な利用の有無について系統ごとに評価・検証し、路線の必要性を検討したい。 →(運輸局)北部診療所から岡崎市民病院間は下山地区線と競合している。系統ごとに分析することがよいが、そのような悠長なことを言っている場合は、岡崎安城線も減便になっているが、地域間幹線の役割がないのであれば、まちバスに役割を譲るなど、事業者と協議した上で方向性を検討して欲しい。広域的な路線の役割を明確にして施策に取組んで欲しい。 →(市)喫緊の課題として認識している。</p>
-------------------------	---	---	---	--